

レファレンス・ツールの評価

大北智子 (大阪府立中央図書館)

1 はじめに

自己紹介

本日のプログラム

2 大阪府立中央図書館の紹介

(1) 全体 蔵書数 職員数 歴史

(2) HP 紹介 人文系資料室の立ち上げ画面

(3) レファレンス統計 (平成 20 年 10 月)

利用案内 7,071 件

所蔵調査 4,672 件

所在調査 2,222 件

文献調査 735 件

事実調査 658 件

(4) CD-ROM データベース利用統計

3 受講者からのアンケート

(1) 受講者の構成 (全体 52 名)

館種別 公共 44 名 (市立 27 名 町立 6 名 県立 11 名)

高校 3 名 大学 4 名 専門 1 名

経験年数 3~9 年 22 名 10~15 年 16 名 16 年以上 14 名

地域 近畿 32 名 (三重を含む) 西日本 17 名 (愛知、石川、岐阜、静岡を含む)

東日本 3 名

(2) アンケートの狙い

他の図書館がどのようなレファレンス・ツールを使っているかを知る。

受講者間の情報の共有化、理由を知ることによって自分との評価の違いを知る。

日常的に使っていると役立つ便利なツールを知る。

(3) アンケート結果 別紙

4 よく使う参考図書・インターネット (府立図書館) 別紙

5 レファレンス・ツールの種類

(1) レファレンスブック

特徴：一覧性・通覧性に優れている。
持ち運びが容易で他の道具を必要としない。
物理的な蓄積が可能。
内容や表現にある程度の統制があり、体裁にも一定の統一性がある。
破損などで使用不能になるまで使える。

欠点：検索性が低い
アクセスポイントが少ない。

(2) パッケージ型電子資料 (CD-ROM。DVD-ROM)

特徴：コンピュータその他の機器が必要。
検索性に優れている。
参考図書よりも速報性がある。
ネットワークが使えなくても利用可能。
内容や表現にある程度の統制があり、体裁にも一定の統一性がある。
破損などで使用不能になるまで使える。

欠点：同時アクセスやコンピュータの機種といったアクセスの制約がある。
OSのバージョンがかわった場合使えなくなる場合がある。

(3) インターネット

特徴：コンピュータと接続経路さえあればいつでもどこでも利用できる。
情報伝達の双方向がある。
速報性・更新性・最新性に優れている。
リンク機能により他の情報源をたどることができる。
伝達と普及が早い・
クリック一つで検索から利用まで利用の一体化が図れる。

欠点：存在そのものが流動的で同一性も低く不安定。
情報源や内容の正確性は必ずしも保障されていない。
不必要や情報が安易に提供されてしまうことがある。
責任の所在があいまいな場合も多い。

6 レファレンス・ツールの評価

(1) レファレンスブック

使用目的・編集方針
収録範囲・収録数
項目の記述・配列
目次・索引
参考文献・付録
編集者・出版社・出版年
印刷・挿図類・造本

(2) パッケージ型 参考図書の評価手段をもとにして評価できるところもある。

正確性
収録期間

機器の使いやすさ

アクセスポイント

利用者支援

利用条件

インターネット 利用者のための評価手段についてはまだ確立されたものがない。

作成者あるいは情報提供者の明記

正確性・客観性

収録範囲

更新性・安定性

作成目的・利用対象者の明記

情報へのアクセシビリティ

7 まとめ

図書とインターネットの使い分け

利用者の質問傾向に即した自館のリンク集作成

インターネット時代の司書の役割

参考文献一覧 別紙